



## 教育学部の近況

教育学部副学部長 馬場 久志

教育学部卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。世界中がコロナ禍に直面して約二年となり、それぞれが命を守るために、職場でもご家庭でも並々ならぬ努力をなさってきたことと拝察します。教育学部もご多分にもれず、先の見えにくい状況で一生懸命に歩んでまいりました。

### 一、コロナ禍の昨年と今年

昨年度当初、学生たちを登校させられない中で困ったのは、教職に向けた指導でした。対面指導に代えてDVD教材の配信をしようと考えましたが、予算がありません。それが教友会のご助力により、高価なDVDが利用可能になりました。会長はじめ教友会の皆様には、心より感謝申し上げます。

今年度は、一部対面授業が再開されました。座席の距離をとるよう指導をするのですが、学生たちはすぐにくっつき、群れて座りまです。とても楽しそうにしゃべっているところに割り込み、君たち仲がいいねえと声をかけながら席の整理をするのが授業始めの仕事に

なるのですが、和気あいあいの若者たちからエネルギーをもらえるのは、対面ならではの感じます。

とはいえ、本学の学生のモラルの高さには感心させられます。教室では指示されなくても備え付けの消毒セットで机上を丁寧に拭き、食堂でもマスクなしで談笑することとは見られません。

一方で、アルバイトがなくなり、生活に困窮する学生も増えていきます。本学では緊急支援奨学金のほか、お昼ご飯をしっかり食べてもらおうと、無料のカレーに続き「百円食堂」(通常価格四百数十円)を企画しました。百円食堂は本学のクラウドファンディングの取り組みです。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

コロナ禍で私たちが覚えたのは、オンラインでの授業です。最初は苦労しましたが、二年目となった今年は、ずいぶん慣れました。もともと、学生たちはずっと早く上達し、モタモタする私などに操作法を的確に教えてくれます。もし皆様の職場でご苦労されているようでしたら、これから卒業する新

人に委ねてください。若者たちに頼もしさを感じると思います。

### 二、教職大学院の拡充

二〇二一年度から、教育学研究科の大学院が教職大学院に一本化されました。入学定員が二十名から五十二名に増え、総合教育高度化と教科教育高度化という二つのプログラムの下に十のサブプログラムを擁する大きな大学院となりました。ここを、学部から六年間にわたる高度な教員養成が展開され、また埼玉の教員をめぐす他大学の卒業生も集う場として、発展させていきたいと考えています。

教職大学院の面白さの一つは、学部を卒業したての院生と、現職教員で入学する院生との学び合いです。学卒院生から見れば、新任として教員集団の中に入るといって臨場感で学べますし、現職院生は学校の世界とはちょっと違う場で自らの振り返りができます。社会人経験をもつ卒業生の皆様は、今後教職に就きたいとお考えの時には、二年間の教職準備期間として活用することを考えてもよいかも

しれません。

教職大学院生の研究成果は、毎年開催される埼玉大学教育実践フォーラムで発表されます。本年は二〇二二年二月十九日に開かれます。

### 三、オンラインで教育学部へ

残念なことに、今年もむつめ祭(学園祭)で皆様を大学にお迎えすることができませんでした。しかし、コロナ禍をくぐりながら、私たちはオンラインという新たなつながりの手段を得ました。毎年秋に開催されてきたホーム

カミングデーは、オンライン開催となりましたが、全学の同窓会長でいらつしやる金子美智雄様をはじめ教友会の皆様のお力により、見応えのあるいくつもの動画が提供されています。本学ウェブページの目立つところにページを開くボタンがありますので、ぜひご覧ください。また、毎年彩の国さいたま芸術劇場で開催されている音楽分野教員による音楽の贈りものは、今年度もオンライン配信となるとのことです。まさに時空を超えて大学がお宅にお伺いするわけです。日頃お忙しくお過ごしのことと存じますが、大学とのつながりのひとときを、ホッとする時間としてお使い頂けたらと思います。